

2022年度 第2回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 7月2日(土) 13時30分～15時30分
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者 奥戸・新宮(平城小)、近野(寺津小)、原(奈良学園)、北村(御所市教委)、
赤松(雑賀小)、加藤(川上村水源地課)、島(吉野小)、和田(財務省)
澤井・東(奈良教育大学学部生)、松澤(東吉野村)、川崎(耳成南小)
尾上・古山・成瀬・上西(森と水の源流館)
杉山・大西・中澤(奈良教育大学) 計 20名

◇内容

つながりをテーマに進める総合的な学習 雑賀小学校：赤松先生

単元づくりのきっかけ

休校の中での学級開始 マスク着用・三密・ソーシャル・ディスタンス

社会科を研究する上で障害が多い状況

→ 尾上さんに連絡をとる GTを依頼

この状況を逆手にとって何かできないでしょうか？

コロナ禍だからこそできること

吉野川から紀ノ川から海へ

学習材の価値

水のつながり 森—川—海 環境教育

「つながり：に気づき探求過程

人とのつながり 人と人のつながりを体験させる

「つながっていくこと」を実感する学習活動

「かわかみの水」が川上村から届いた

ペットボトルのラベルに注目する

どうして水なのに木が描いてあるのか？

川上村について調べよう お礼の手紙を書こう(国語科)

尾上さんからビデオレターが届いた どうして木の絵が描いてあるの？

「森と水が関係している」とは具体的にどういうことなのか

「水の旅のはなし」から考えよう どうして菓子にお米や魚が出てくるの？

尾上さんはどういう気持ちでこの歌詞をかいたの？

→ 尾上さんとオンライン授業

尾上さん・松谷さんが来校 「水の旅のはなし」

「つながり」に気づく探求過程 人や生き物が全部水でつながっている

人とのつながり 水(物) — 手紙 — ビデオレター — オンライン — 対面
メディアの活用 地域の方や川上村出身の方からの手紙

直接体験→子どもの心に火をつける

今回 人とのつながり から子どもの心に火をつける ことができる

川上村を見学

川に捨てられているゴミに着目 自然が泣いている、許せない

下流や海も見学に行こう

紀ノ川下流を見学

干潟で生き物をさがす 自然がいっぱい

底が見えない どうやったらこんなによごれてしまうの？

和歌山県環境学習アドバイザー 平井研先生 自分たちの生活が川の水を汚している

でも汚れ全てが悪いわけでは内

目に見えないよごれと目に見えるよごれがある

友が島 海洋漂着ゴミが問題になっている

友が島を見学 友が島漂着ゴミ調査プロジェクト 和歌山だけの問題じゃない！

「いいことも悪いこともつながっている」

→ SDGs の紹介 → 自分達にできることを考える

①伝える・知ってもらう

自分にとって関係がないと思っていると行動にならない

学習したことをふりかえって「いいこと」「悪いこと」を整理して伝えよう つながりプロジェクト

「おもしろ環境まつりオンライン」「しらす祭り」「オンライン学習交流会」

②自分が行動する

ビーチクリーン

子ども達が感じている「つながり」

①水のつながり、②いろいろな人とのつながり 「本当につながっていると」実感

学習のまとめ「わかやま海洋サミット」

問題解決にむかう姿勢の変化がうかがえた みんなで取り組むことに意義がある

意見交流

・体験と学習がつながっているのがすごい

・想定では1学期でいったん修了し、2学期に川上村へ、ゴミと出会って友が島へどこまで計画していたのか

→ 2学期の最初、尾上さんと出会うところまでは計画していた（人との出会いがメイン）

下流域の情報と友が島情報をつなげた

・GTとの関わりが単発でないのはよかった 伴走者：継続的に関わってもらうことではげみに

・「水」を飲むところを導入にしているところがよい

・自分事になっていたと思う 「つながり」の重要性を感じた

・学級・学年での取り組み方について

資質・能力（子ども達につけたい力）は学年でそろえる

・学校として継続できるシステムはあるのか 形骸化することは避けた

・学校としての資質・能力の系統性について システムとしてはできていないが、子どもの中ではできているところがある

・「いいことも、悪いこともつながっている」 色々な場面で意識化「つながり」をテーマにした学習

- ・GTへは自分の言いたいことをぐいぐい押していく。GTの言いたいことを引き出していく
両者が本気になることが大切 教員がつながっていく姿を見せていくことが重要
子ども達への影響にも差が出るように思う。熱が伝わる。
- ・GTに語っていただきたいことをしっかり伝える
- ・GTとつながることで子どもの変容がある GTとしての責任を感じた
- ・この学習内容は、大人にも通用する。
- ・ターニングポイントは尾上さんとの出会い。
- ・GT その人は「本気」になったか？ 手を抜けないという思いに至らせることが大事。

次回は7月30日（土）10時～12時 単元構想案の相互検討会を予定しています。

“ゲストティーチャー”のタネあかし

森と水の源流館（公益財団法人 吉野川紀の川源流物語）事務局長 尾上忠大

和歌山市立雑賀小学校の赤松先生から、令和2年度での4学年の授業実践の報告をいただきました。ありがとうございます。この学習のお手伝いをした“ゲストティーチャー”の立場から、少しコメントさせていただきます。これから森と水の源流館をご活用いただく際の参考にしていただければ幸いです。

☆赤松先生曰く、「ゲストティーチャーには、グイグイと希望を伝えること！」

たしかに、そうでした（笑）。ただ、この授業づくりセミナーに参加されている先生の多くはそのタイプなので、こちらも慣れていきます。また単なる断片としての「希望」でなく、先生自身がしっかりと授業の構想、設計を立てておられる中での「こうしたい」「こうしてほしい」ということでしたので、こちらもやりがいを感じるどころでした。

☆多いご希望は、「しゃべり過ぎないで！」ということ

でも、この授業づくりセミナーに参加される先生方からのご希望で共通していることは、「しゃべり過ぎないでほしい」ということです。「あれもしてほしい」「これもしてほしい」というのが「希望」と思いがちですが、意外と先生方にいつも言われるのは、「児童たちが調べたこと、意見や感想を聴いてほしい」「それを受けてコメントを返してあげてほしい」ということです。最近はしゃべる時間より、聴く時間が長くなったな～と感じます。（笑）

☆森と水の源流館では、「パッケージ化された学習プログラムというものは、ありません」

いわゆる体験学習プログラムの“定食メニュー” Aコース・Bコース・Cコース…というものはありません。その都度、先生のお考えやご希望をお聞きしながら「こんなことはどうですか？」というスタイルを開館以来、続けてきていますので、まずは先生とのお話から入っていきたくと思っています。

☆森と水の源流館からもご提案します

というわけで、授業構想、設計をしっかりと作られる先生、グイグイご希望を伝えてくれる先生は大歓迎です。そして森と水の源流館からもご提案いたします。「それでしたら、こんな題材がありますよ」はもちろんです。時には「それなら森と水の源流館ではなく、まずは〇〇へ行かれたらどうでしょう」「ゲストティーチャーには、森と水の源流館のスタッフではなく、□□の〇〇さんという人がよいと思います」というご提案もいたします。失礼なようですが、先生方のご希望を理解しているからこそとお考えください。今回、赤松先生とも「コロナで校外へ出ることができないので、森と水の源流館では今、出張教室はできますか？」という趣旨のご相談に対して「行くことはできますが、今は厳しいコロナ対策を遵守すると、結局コミュニケーションができないので、それならオンラインでも同じですし、その積み重ねを先の対面の出会いにつなげましょう」からお話合いが始まりました。

☆翌年度からの学校の動き？

今回の赤松先生の実践事例に対して、他の先生方の大きな関心事は、「他のクラスとの関係は？」「先生が変わっても学校に残るか？」といったお話だったと思います。森と水の源流館から見える範囲で、翌年度（令和3）、赤松先生は他学年に動かされても、4年生は川上村へ来て、同じような体験、見学の学習を行い、その事前オンライン教室や、出張教室にも呼んでいただきました。今年度（令和4）は赤松先生が4年生に戻られて、全4クラスで、学習検討の打合せやオンラインの場づくりを進められています。

☆全部の学校に対応できるか？

「毎年、森と水の源流館へ遠足で来ていただいている全ての学校に対して、このような対応ができるか？」と言われると、「できません」と答えます。でもそれは、まだ心配しなくても、そこまでの「希望」をおっしゃってくれる学校、先生はまだまだ少ないと捉えています。まだまだ増えてほしいと思っています。

ですので、森と水の源流館 ESD 授業づくりを通じて、ぜひ先生のお考えをお聞かせいただき、森と水の源流館からご提案していきたいと考えています。

☆最後に費用関係のこと

先生方と森と水の源流館のよい関係、また学校がある地域と川上村のよい関係を築いていくことは、地域創生、地域づくりの視点でもよい成果を川上村にもたらしてくれています。

たくさん地域とそんな関係を築いていくことは、川上村の取組む「水源地の村づくり」の一環と言い切ることができます。

そのために、森と水の源流館で気を付けていることは学校間の公平性です。「熱い先生には、こちらも熱い対応になる」この点での公平性は保てません（笑）が、ご利用料金やご利用のルールなどについては、原則のもと対応させていただきます。「あの学校は、特別に無料になったから、できたんだ！」のような印象を与えることは、素晴らしい授業をデザインされた先生方や森と水の源流館にとっても不本意ですので、何卒、御理解ください。

ちなみに、これまで「かわかみの水」を授業でご活用いただいたいくつかの学校様には、水はお買い上げをいただいたうえで、先生方の設計上「水が贈られてきた」と表現いただいています。

また、その年度内で森と水の源流館へのご来館利用があれば、そことご入館料（減免申請で、先生・児童お一人100円）をいただけましたら、オンライン、出張教室については回数に関わらず、無料で対応いたしております。ご来館予定がない場合は、1回目の出張教室のみ入館料と同等の費用を承ります。なおフィールド体験は別途費用を設定しております。

では、これからも先生方の授業づくりにおいて、森と水の源流館をご活用ください。